

第38回福岡県美しいまちづくり建築賞 受賞作品概要

大賞 住宅の部

「井堀の家（産後ケアハウスsheep）」

設計趣旨

住宅街の中に建つ小さな産後ケア施設を併設した店舗兼用住宅である。産後ケア施設とは育児中のお母さんが求めるケアを助産師が提供する施設である。育児、授乳相談、食事やゆっくり時間の提供を助産師である奥様自身が行っている。平日は夜間もゲストが滞在するため住宅と施設は中庭を挟んだ構成としている。とはいえ扉一枚で繋がっているため住宅のダイニングでゲスト

同士のランチ会やママさん教室などのイベントが行われることも。住宅としてのプライバシーの確保をしながらも利用状況に応じて都度柔軟に使えるゾーニングとしている。ゲスト滞在中は中庭側を開くことは難しいので中庭側上部の窓や裏庭からも空や緑を感じられるように配慮している。なお施設の営業は平日のみであるため週末はご家族が中庭で食事をとるなどゆっくりとした時間を過ごされているようである。

外観はプライバシーの観点から閉じたボリュームとしているが奥へと伸びるアプローチにより「抜け」を作り圧迫感を抑えるように配慮している。外壁は小国杉によるボード&バテン貼りとすることで陰影のある豊かな表情として、自然素材の経年変化と共に地域に馴染んでいくことを期待している。



大賞 一般建築の部

「風のオフィス」

設計趣旨

生物や植物の調査を主たる業務とするエコプラン研究所がキーテナントとして入居する住宅街に建つオフィスの計画である。研究所のメンバーの業務に関する話はいつも興味深く、ぜひ地域の子どもたちにもこの仕事の魅力を知ってもらいたいと考えた。さらに、彼らは環境調査をし、その結果を環境保全に役立てることを生業としているので、このオフィスが直接近隣住民の環境意識を訴求するものになることを目指した。

本計画の敷地は住宅街の高台に位置しており、気持ちの良い風が吹き抜けることが予測できた。そこで、実験を行い強風が吹いても書類が飛ばないように「風量調整建具」を開発した。また、全面道路との境界には小さな雨庭を設け、大雨のときには雨水を一時貯留できている。さらに、近隣の公園に絶滅危惧種であるクロツバメシジミという蝶が生息していることがわかったため、その蝶が好む植物を植えた。早速、蝶が飛来してきて、幼虫も確認されている。このような活動が北九州市の推進するグリーンインフラの一助になればと考えた。

オープンハウスには隣接する高校の先生や生物部の生徒も沢山見学に来ていただいた。

今後、この建築を通じて近隣地域の住民に環境に対する意識が少しずつ醸成されていくことを願っている。

